



増田 武夫
議員
(日本共産党
幕別町議員団)



幕別町議会が「幕別町平和非核宣言」を決議してから、来年は30年の節目の年となる。宣言は、幸せな町民生活を守るために、戦争のない恒久平和と核兵器の全面禁止を求めている。

この宣言の30周年に当たり、町長に次のような取り組みを求める。
(1)恒久平和に反する「集団的自衛権の行使容認」や、核兵器と同じ脅威をもたらす「原発」の廃止の立場を明確にすること。

(2)2015年は国連のNPT（核不拡散条約）再検討会議が開かれる。「宣言」をしている町にふさわしい積極的対応を求める。

(3)「宣言」30周年にふさわしい、「恒久平和」「核兵器の全面禁止」を町民と共有できる記念の取り組みを。

町長 (1)集団的自衛権の行使については、外交関係処理することとは内閣の専権事項であり、町長として個人的な見解を明らかにすることは差し控えたい。また、原



原爆パネル展の開催

問 「平和非核宣言」30年にふさわしい記念の取り組みを

答 小中学生への平和に関する標語・ポスターの募集など検討を進めている

発廃止については、原子力発電に頼らず、エネルギーが充足できるような努力が必要だが、エネルギー問題全体の中で、原発をどうあるべきかを判断していく必要がある。十分論議が必要である。

(2)町はこれまで原水爆禁止国民平和大行進活動などの民間レベルの活動に対して支援してきた。

今後も広報紙やホームページを活用した啓蒙活動を進めるとともに、国や道そして平和首長会議の活動と協調を図りながら、町民と思いを共有し、平和事業を進めて

問 豊かな人間形成のため学校教育の充実を

答 小中学校11校で特別支援教育支援員を39人配置している

いきたいと考えている。

(3)継続して実施している平和事業に加えて、理解を深める記事の広報紙への掲載や小中学生への平和に関する標語・ポスターの募集、映画上映会など、平成27年に向けて、現在、検討を進めている。



問 将来の社会を支える子どもが、政府は責任を果たしていない。次の点に思い切った力を入れ、豊かな人間形成を図るよう求めたい。

(1)「30歳以下学級」実現の努力を図ること。

(2)町独自にも栄養教諭の配置を進めること。

(3)学校図書館充実のため、専任・専門・正規の学校司書を置くよう努めること。

(4)非正規職員の正規化に努めること。

教育長 (1)小中学校の全学年における少人数学級の完全実施については、以前から全国市町村教育委員会連合会を通して、国に対し「通常学級の少人数化（30人学級）」について、要望を続けているところであり、引き続き国に強く要望したい。

(2)平成25年度から忠類小学校に配置したが、幕別地区は栄養教諭の配置に至っていない。平成28年度に任用替えによる栄養教諭1人の配置が可能となるよう、幕別学校給食センターの衛生管理・調理体制の整備に努めていきたい。

(3)現在、司書教諭や学校図書館の運営を担当する校内組織による図書選定・収集や読書活動の指導をはじめ、町の図書館職員の助言、支援による学校図書館の書架の整理や蔵書の配置換えを行うなど、学校司書の役割を含め、学校全体で児童生徒の読書意欲の向上、利用促進に向けた取り組みを行っているところであり、当面は現行の取り組みを見定めていきたい。

(4)町費の臨時的任用職員について、支援が必要な児童生徒数の増減により特別支援教育支援員の配置数の増減があること、また事務補助員についても、各年度の学級数によって増減することから、現在の雇用形態で対応していきたい。